

島根県立隠岐水産高等学校 歴史と伝統ある水産単科の高等学校で漁業ガイダンス

隠岐諸島

島根県の隠岐諸島は、4つの有人島と180ほどの小島からなる群島で、東側の大きな島を「島後」と呼び、西側の知夫里島、中ノ島、西ノ島の3つの島を「島前」と呼ぶ。隠岐諸島には、固有の動植物が多数生育し、この全域が大山隠岐国立公園に含まれ、島根県立隠岐水産高等学校は「島後」の隠岐の島町に位置している。

島根県立隠岐水産高等学校

今年で創立119年目を迎える国内屈指の歴史と伝統ある水産単科の高等学校。海洋システム科、海洋生産科の2学科の中に、漁業系、機関系、製造系、栽培系の4つのコースがある。また、漁業科と機関科の2学科は本科卒業後に専攻科への進路があり、高度な水産海洋教育を行っている。

校舎は海に囲まれた恵まれた環境にあるため、全国各地から生徒が集まり「熱・意気・団結」を合い言葉に、同校ならではの授業や実習、学校行事、資格取得に真摯に取り組んでいる。

漁業ガイダンス

7月7日、島根県隠岐の島の島根県立隠岐水産高等学校で、一般社団法人大日本水産会が事務局を務める漁業ガイダンスが開催され、本科生1年生47人の生徒が参加した。

漁業ガイダンスは事務局の大日本水産会のほか、4つの企業・団体が参画し、生徒たちは各会社のブースをローテーション形式で回り、漁師の仕事や漁法、会社概要などの基本的なことから、船内生活の様子や休日の過ごし方といったプライベートな側面に至るまで詳細な説明を受けた。

また、各ブースの担当者はパンフレット資料だけでなく、プロジェクターや動画、さらにバーチャル・リアリティ（VR）を活用し、船内生活や漁労作業を疑似体験することで、漁師の仕事を理解してほしいと創意工夫を凝らした。

生徒たちも熱心に耳を傾け、説明後には、漁業に関心をもった生徒たちから、さまざまな質問が出され、各会社担当者から丁寧な説明が行われることで、漁師の仕事に理解を深め、漁業ガイダンスを終了した。

「海員だより」